総合的な学習の時間「福祉」と 特別活動

パラリンピック種目体験で共生の態度育成を ③車椅子バスケ

メナオ・ハ

- パラリンピックや障がい者スポーツへの理解を深める
- パラリンピックや障がい者スポーツへの関心を高める
- チームワークやフェアプレー等のスポーツの価値について理解する

1 車椅子バスケットボール体験と国際大会観戦

体育科「バスケットボール」（第５学年）の学習の間に、特別活動「車椅子バスケットボール選手を応援しよう」を位置付けました。車椅子バスケットボール選手と出会い、ゲームの実演を見せていただきました。その後、競技用車椅子に乗ってのフリースロー体験をしたり、質問等の交流の時間を設けたりして、現在学習しているバスケットボールとの相違点を知っていきました。試合を控えた車椅子バスケットボールの選手達にメッセージを書き込んだ「横断幕」を作成し、プレゼントしました。

国際大会が開催されている会場に、実際に観戦に行きました。試合中に転倒した相手の選手に対しても、手をさしのべる日本の選手のフェアプレー精神に、感動している子どもも多くみられました。シュートを外した選手に、味方選手が寄り添って励ましている姿から、チームワークの大切さに気付く子どももみられました。

その後、自分たちも体育科「バスケットボール」の学習に、チームワークやフェアプレーを意識しながら、運動がもつ特有の面白さを感じ取っていくことができました。

2 外国のパラリンピック選手との交流

総合的な学習の時間「つくろう！未来の計画書」（第６学年）の単元でも、道徳科と教科横断的に取り組みました。道徳科の資料に、パラリンピックを目指している男の子が夢や目標に向かって勇気をもってくじけずに努力する話を共感的に活用し、学習しました。その後、パラリンピックの選手や英国パラリンピック委員との交流を行いました。

Check!

ココがポイントです！

①教科横断的に取り組むことで、より効果が高まります。

②交流することで終わらず、交流相手の試合を観戦したりすることでつなぐと大変効果的です。

③１つの競技だけでなく、他の競技とつなぐと効果的です。

車椅子バスケットボール選手との交流の様子

▲実演を見る様子

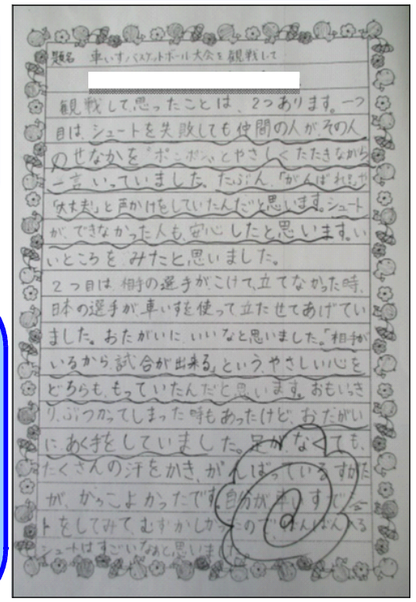
▼フリースローの体験

▼プレゼントした「横断幕」

国際車椅子バスケ大会観戦

パワーリフティング選手との交流

子どもの感想


題名　車いすバスケットボール大会を観戦して

[redacted]

観戦して思ったことは、2つあります。一つ目は、シュートを失敗しても仲間の人がその人のせなかを"ポンポン"とやさしくたたきながら一言いっていました。たぶん「がんばれ！」や「大丈夫」と声かけもしていたんだと思います。シュートができなかった人も安心したと思います。いいところをみたと思いました。

2つ目は、相手の選手がこけて立てなかった時、日本の選手が車いすを使って立たせてあげていました。おたがいにいいなと思いました。「相手がいるから試合が出来る」というやさしい心をどちらももっていたんだと思います。おもいっきりぶつかってしまった時もあったけど、おたがいにあく手をしていました。暑くなっても、たくさんの汗をかき、がんばっていましたが、がっこうよかったです。自分がやってシュートをしてみてむずかしかったのでみんながするシュートはすごいなと思いました。